

子どもの運動習慣アップ支援事業 成果報告書

滋賀県 2019年4月

=====
スポーツ庁委託事業「子どもの運動習慣アップ支援事業」

I. 滋賀県における子どもの運動習慣アップの取組	1 ページ
1. 現状とこれまでの取組	1 ページ
2. 総括	2 ページ
II. 平成 30 年度の具体的な取組結果	4 ページ
1. 運動遊びプログラムに関する指導者の育成	4 ページ
2. モデル事業の展開	5 ページ
(1) プレイリーダー派遣	5 ページ
(2) 活動量の調査	7 ページ
(3) 研修機会の提供	16 ページ
(4) その他	16 ページ
III. 取組による成果	17 ページ
1. 運動遊びプログラムに関する指導者の育成	17 ページ
2. モデル事業の展開	17 ページ
3. 研修機会の提供	18 ページ
IV. 課題	
1. 事業実施について	20 ページ
2. 運動遊びプログラムについて	20 ページ
3. 保護者への啓発について	20 ページ
V. 今後の展開方策	21 ページ
1. 基本方針	21 ページ
2. 今後の取組	21 ページ
(1) 運動遊び指導者（プレイリーダー）の養成	21 ページ
(2) プレイリーダーの幼稚園等への派遣	21 ページ
(3) 運動遊びプログラムの周知・啓発	21 ページ

はじめに

幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きを身に付けやすく、体を動かす遊びを通して、動きが多様に獲得されるとともに、動きを繰り返し実施することによって、動き方が上手になる洗練化も図られていきます。また、意欲を持って積極的に周囲の環境に関わることで、社会性の発達や認知的な発達が促され、心と体が相互に密接に関連し合いながら総合的に発達していく時期です。幼児期における運動については、適切に構成された環境の下で、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に、体を動かすことを通して生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基礎を培うことが大切です。(スポーツ庁：幼児期の運動に関する指導参考資料[ガイドブック]第1集から抜粋)

この報告書は、前述の内容を踏まえて滋賀県がスポーツ庁の「子どもの運動習慣アップ支援事業」を受託し実施した取組をまとめ、発信することによって地域での「幼児期の運動遊びの充実」や「子育て世代の運動機会の促進」を図るための基礎資料とする。

I. 滋賀県における子どもの運動習慣アップの取組

1. 現状とこれまでの取組

2018年度の調査によると本県の成人の週一回以上のスポーツ実施率は国のスポーツ実施率よりも低い状況である。特に、働き世代や子育て世代といった年齢層の実施率が低い傾向となっている。また、子ども(小学5年生)の1週間の運動・スポーツ実施時間も男女ともに減少傾向にあり、差は縮まってきているものの全国平均と比較して低い状況である。

こうした状況を踏まえて、県では「幼児期の運動機会の充実」や「子育て世代の運動機会の促進」を目的として、平成26年度(2014年度)から平成29年度(2017年度)にかけて、幼児を対象とした運動遊び教室や子育て世代を対象とした親子運動教室を実施し、その取組を通じて運動遊びプログラム「PIC」(※)の作成を行った。

そして、平成30年度(2018年度)からは子どもの運動習慣アップ支援事業として、運動遊び指導者(以下、プレイリーダー)の育成やプレイリーダーの幼稚園等への派遣によって「幼児期の運動機会の充実」や「子育て世代の運動機会の促進」を図るとともに運動遊びプログラムの効果の検証および周知に取り組むこととした。

※運動遊びプログラム「PIC」

Parent Infant Child の略

(幼児期の運動遊びの促進や、子育て世代の運動機会の充実を目的に親子で一緒に体を動かすメニューなどを盛り込んだ運動遊びプログラム)

2. 総括

スポーツ庁委託事業である「子どもの運動習慣アップ支援事業」を受託し、「幼児期の運動機会の充実」や「子育て世代の運動機会の促進」を目的として、①運動遊びプログラムに関する指導者の育成、②モデル事業の展開、③研修機会の提供に取り組んだ。(図1)

また、様々な関係者から構成される子どもの運動習慣アップ支援事業実行委員会を設置し(図表2)、事業実施における進捗管理を行うとともに、継続して地域で取り組むための課題整理、地域でのプログラム普及等に関して検討を行った。

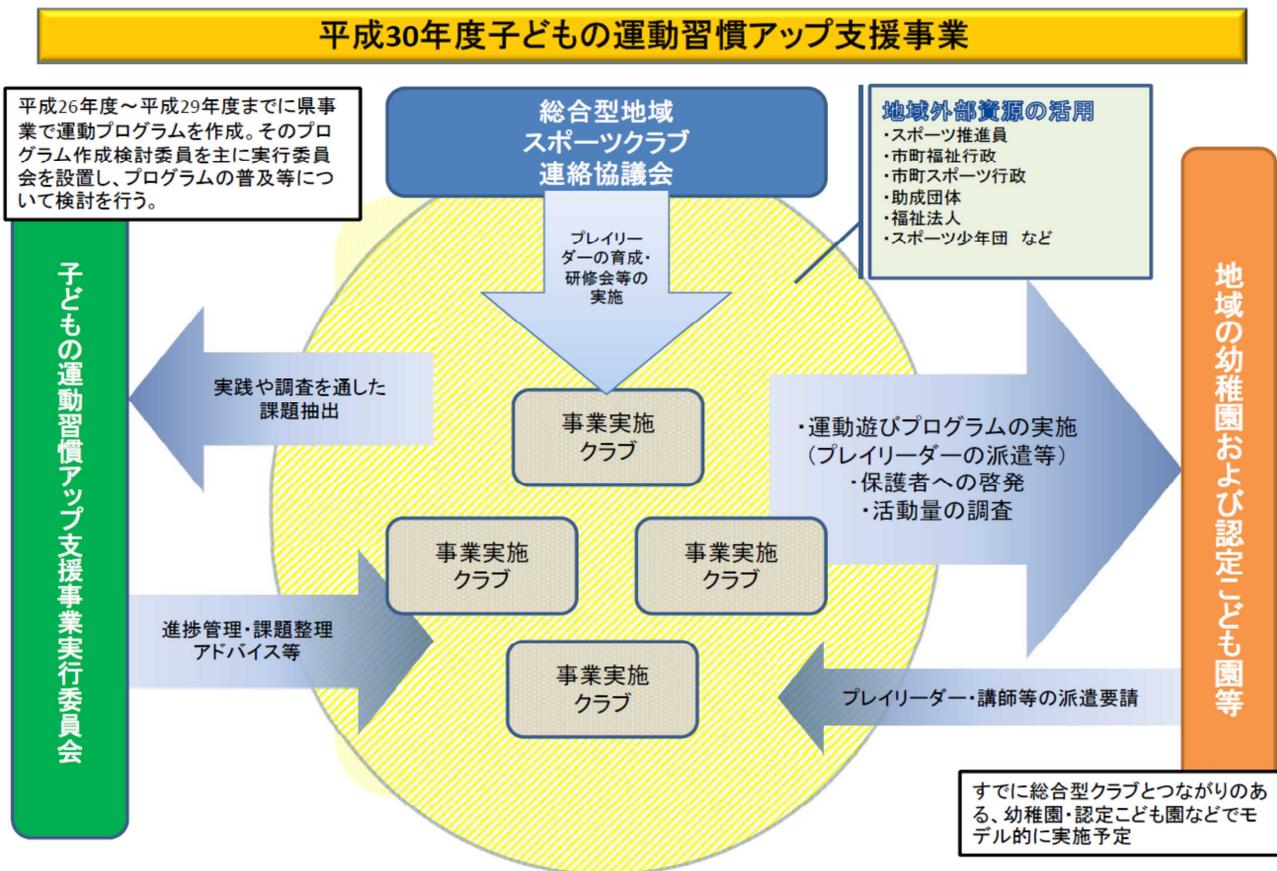
運動遊びプログラムに関する指導者の育成では、地域の運動・スポーツ実践の拠点である総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)の指導者を対象にプレイリーダーの講習会を実施し、プレイリーダーを養成することによって、県内の様々な地域で、運動遊びプログラムの実践や普及ができる環境づくりを促進することができた。

モデル事業の展開では、アドバイザーとして子どもの運動遊びなどを研究している大学教授にご協力いただきながら、総合型クラブから幼稚園等にプレイリーダーを派遣することで子どもたちが楽しんで、自発的に体を動かしたいと思うような様々な運動遊びプログラムを提供することができた。また、プレイリーダーによる運動あそびプログラムの実践を行うと同時に、ICTを活用し子どもの活動量の変化などを計測・検証することで運動遊びプログラムの効果や実用性を測りそれを保護者や幼稚園教諭等に示すことができた。

研修機会の提供では、幼児期の運動遊びに取り組むことの必要性や重要性、モデル事業の展開で得られた運動あそびプログラムの効果や実用性を主に幼稚園教諭等を対象に研修会を通じて学んでいただくことで、継続した運動遊びプログラムの実践のきっかけを促進することができた。また、幼稚園等の先生へのアンケートを実施することで現場での運動遊びに対するニーズを確認することができた。

実行委員会では事業の進捗管理を行うとともに運動遊びプログラムの効果や実用性の分析およびその発信について検討し、今後の事業の広がりや継続的な運動遊びプログラム実践の環境づくりを促進することができた。

■ 図 1



■ 図表 2 実行委員会構成団体

団体名	
1	NPO 法人 レインボークラブ
2	KONAN 忍にんスポーツクラブ
3	いぶきスポーツクラブ
4	きのもと eye' s
5	NPO 法人こうかサスケクラブ
6	聖泉大学
7	きのもと認定こども園
8	水口北保育園

■ 図表 3 プレイリーダー派遣クラブ

	クラブ名	地域
1	NPO 法人こうかサスケくらぶ	甲賀市
2	きのもと eye' s	長浜市

■ 図表 4 プレイリーダー派遣先保育所等

	クラブ名	地域
1	社会福祉法人ひまわり会 水口北保育園	甲賀市
2	長浜市立 きのもと認定こども園	長浜市

Ⅱ. 平成 30 年度の具体的な取組結果

1. 運動遊びプログラムに関する指導者の育成

アドバイザーとしてご協力いただいている聖泉大学人間学部の炭谷教授を講師に迎えて、運動遊びプログラム「PIC」を活用し適度に関与しながら子どもたちが自発的に活動できるよう促すことができるプレイリーダーの育成研修を実施した。

研修は2部構成とし、1部で幼児期における運動遊びの必要性(座学)、2部で運動遊びプログラム「PIC」実技研修を実施した。

年月日	場所	内容	修了者
2018/7/24	豊郷町民体育館（豊郷町）	1部 「幼児期における運動遊びの必要性について」 2部 運動遊びプログラム「PIC」実技研修	9人
2018/7/26	甲南体育館（甲賀市）		21人
2018/7/27	伊吹山麓 青少年総合体育館（米原市）		6人
2018/8/1	和邇市民体育館（大津市）		5人
2018/10/31	コミュニティセンター ひょうず（野洲市）		29人
2018/11/10	安曇川総合体育館（高島市）	滋賀県スポーツ推進委員第1地区研修会 1部 「スポーツを支える大人の役割とふるまい」 2部 運動遊びプログラム「PIC」実技研修	90人
合計			160人

<研修会の様子>



2. モデル事業の展開

幼稚園・保育所にプレイリーダーを派遣し、以下のとおり運動遊びプログラムを実施した。

また、プレイリーダーの介入によって子どもたちの活動量にどういった変化が現れるのかを計測するために ICT を活用し活動量の調査を実施した。

(1) プレイリーダー派遣

<事例1>

○派遣場所：長浜市立きのもと認定こども園

○プレイリーダー派遣総合型クラブ：きのもと eye's

年月日	場所	内容	年齢	クラス	人数	PL 派遣人数
2019/1/11 9:30~10:10	こども園 (室内)	動物歩き・ボールで遊ぼう (キャッチボール、ボール運びレース)・遊びのサーキット	5歳	2クラス	50人	4人
2019/1/17 9:30~10:10	こども園 (室内)	歩く・走る・開閉片足立ち・からだジャンケン・ばくだん運び・遊びのサーキット	5歳	2クラス	50人	3人
2019/1/24 9:30~10:10	こども園 (室内)	歩く、走る・背中合わせで立つ・マットで雑巾がけ・新聞で遊ぼう・遊びのサーキット	5歳	2クラス	50人	4人
2019/2/6 10:20~11:00	こども園 (室内)	後ろ歩き、横歩き・大縄跳び・タオルでキャッチ・ボール入れ・遊びのサーキット	5歳	1クラス	25人	6人
延べ人数						17人

<プレイリーダー派遣時の様子>



<事例2>

○派遣場所：社会福祉法人ひまわり会 水口北保育園

○プレイリーダー派遣総合型クラブ：NPO 法人レインボークラブ

年月日	場所	内容	年齢	クラス	人数	PL 派遣人数
2018/7/24 10:30~11:00	保育園 (室内)	動物歩き・遊びのサーキット・マット で雑巾がけ	4歳	2クラス	48人	6人
2018/7/26 10:30~11:00	保育園 (室内)	動物歩き・遊びのサーキット・マット で雑巾がけ	4歳	2クラス	48人	5人
2018/7/27 10:30~11:00	保育園 (室内)	動物歩き・遊びのサーキット・マット で雑巾がけ	4歳	2クラス	48人	5人
2018/8/1 10:30~11:00	保育園 (室内)	動物歩き・遊びのサーキット・マット で雑巾がけ	4歳	2クラス	48人	6人
述べ人数						22人

<プレイリーダー派遣時の様子>



(2) 活動量の調査

プレイリーダーの派遣を実施するにあたって、プレイリーダーの介入した時と、していない時のこどもの活動量の変化や、プレイリーダーが介入することによる効果の測定を行うために、約2か月間子どもたちに活動量計（図5）をつけてもらい活動量の計測を行った。

<活動量の調査の手順>

8～9月 ……………対象幼稚園等の選定・決定（滋賀県保育所協議会等への相談）

10月 ……………活動量の調査対象の決定（年齢・人数・期間）

11月 ……………保護者への活動量調査の協力依頼・同意書の取得

12月～1月 ………活動量計の装着・活動量の測定

（1日の流れ）

園ごとに設定した時間に活動量計を装着

園にいる時間帯は活動量計を常につけている状態

帰宅時に活動量計を外す（長時間や短時間に関わらず園にいる間装着している）

2月 ……………活動量のデータ集計

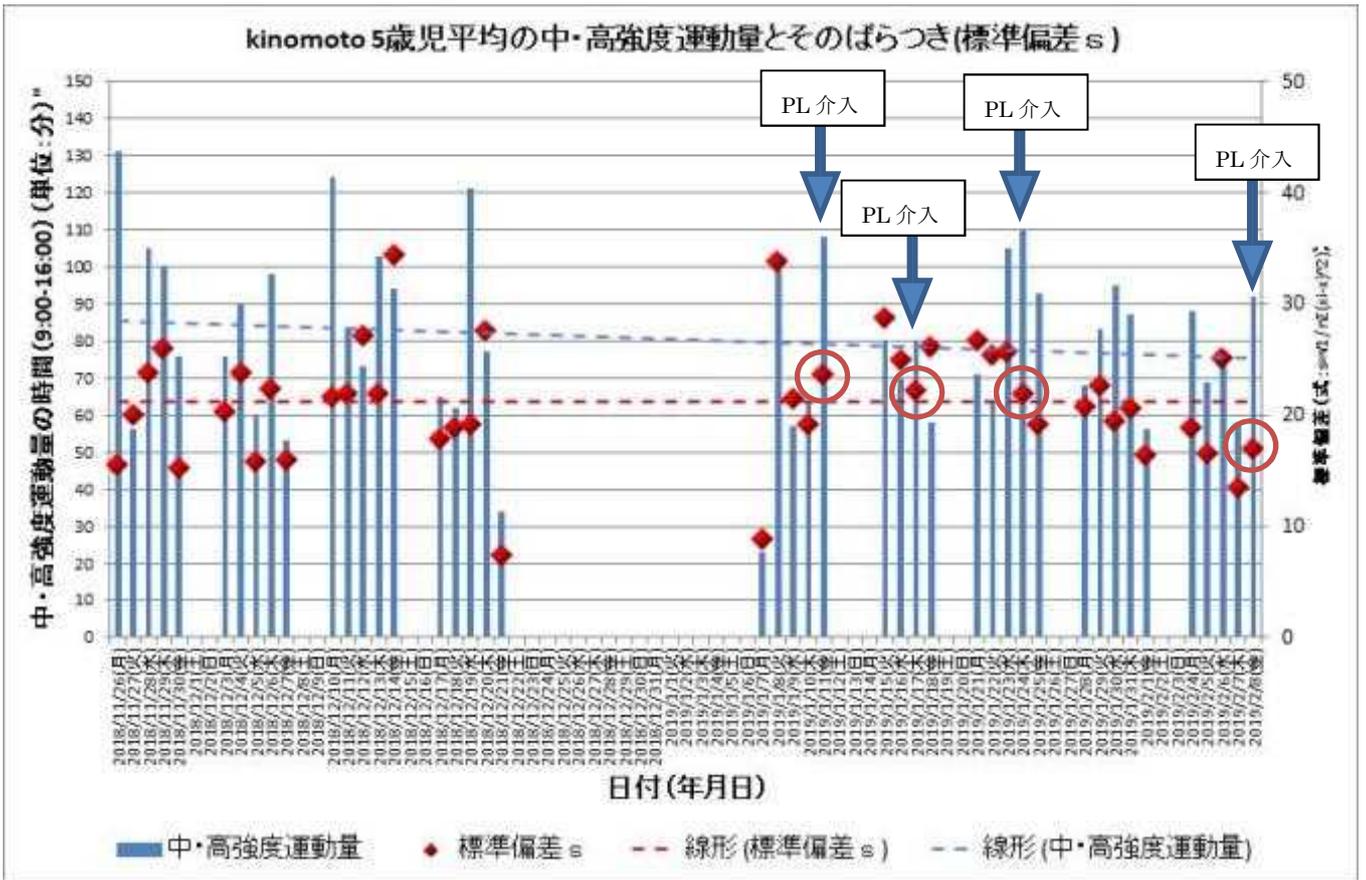
図5



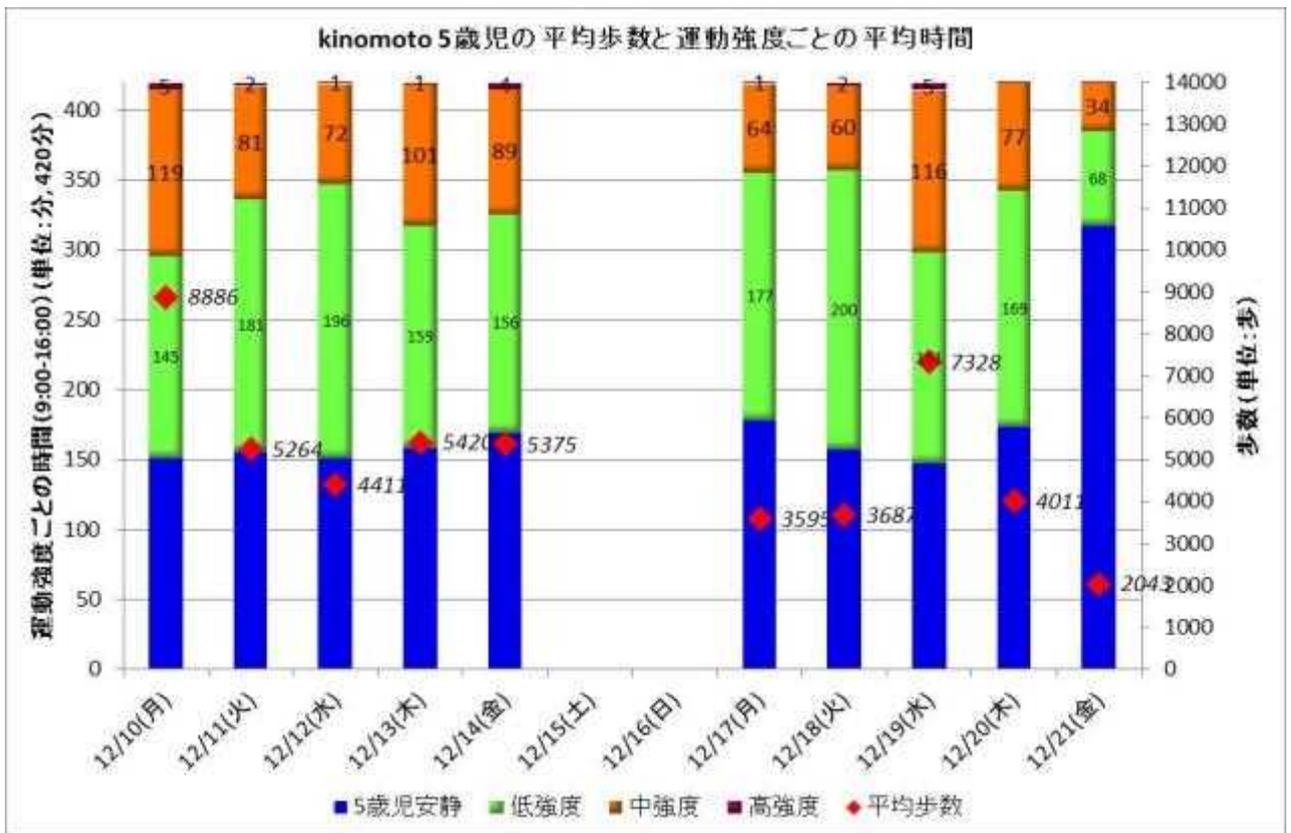
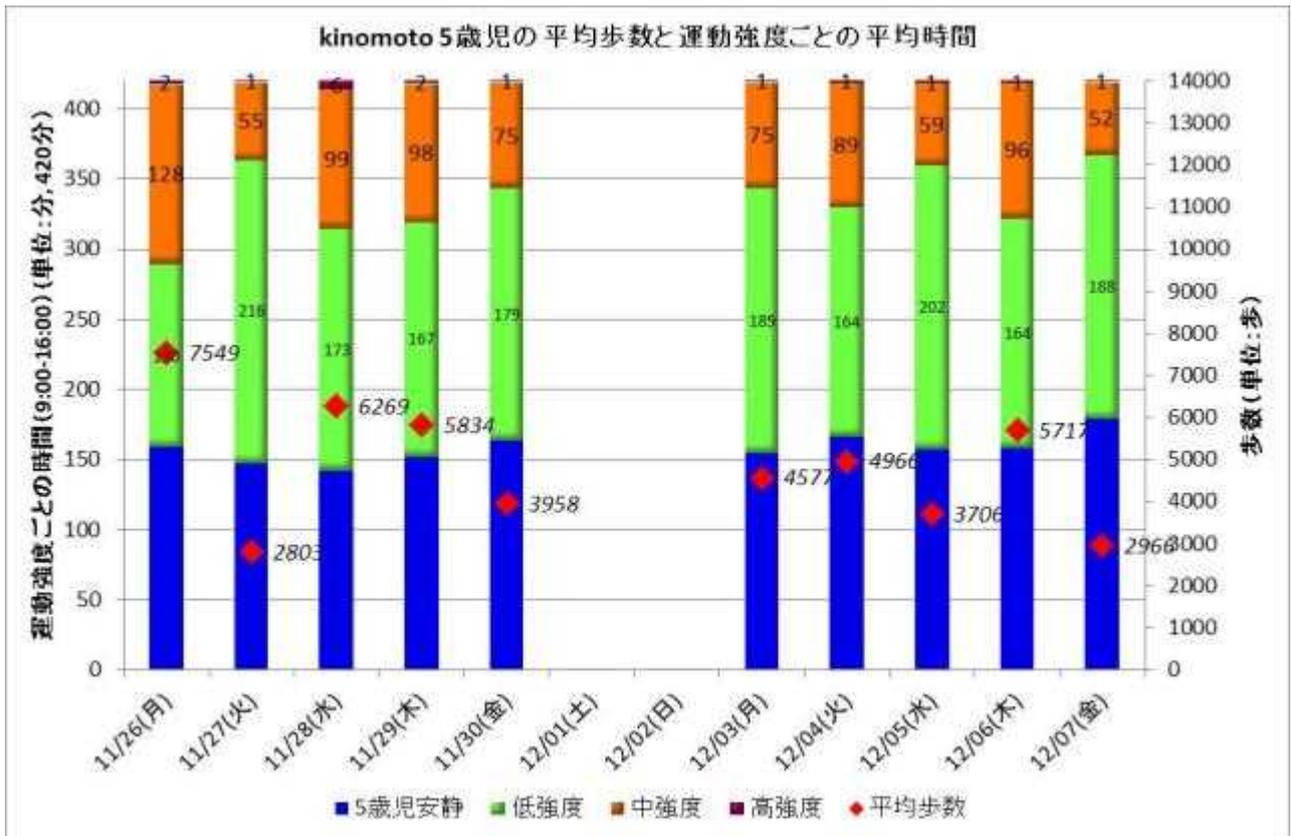
<事例1>

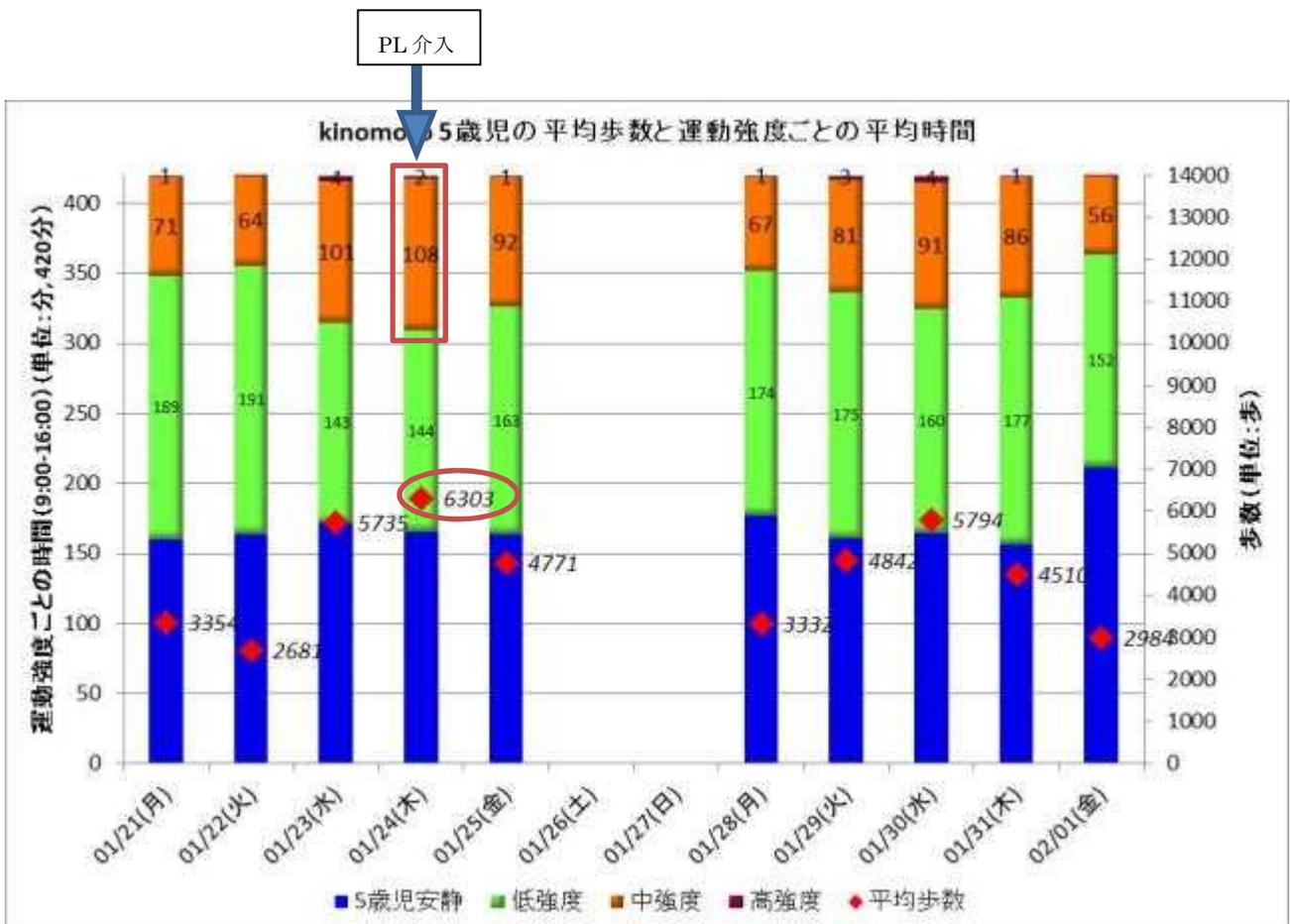
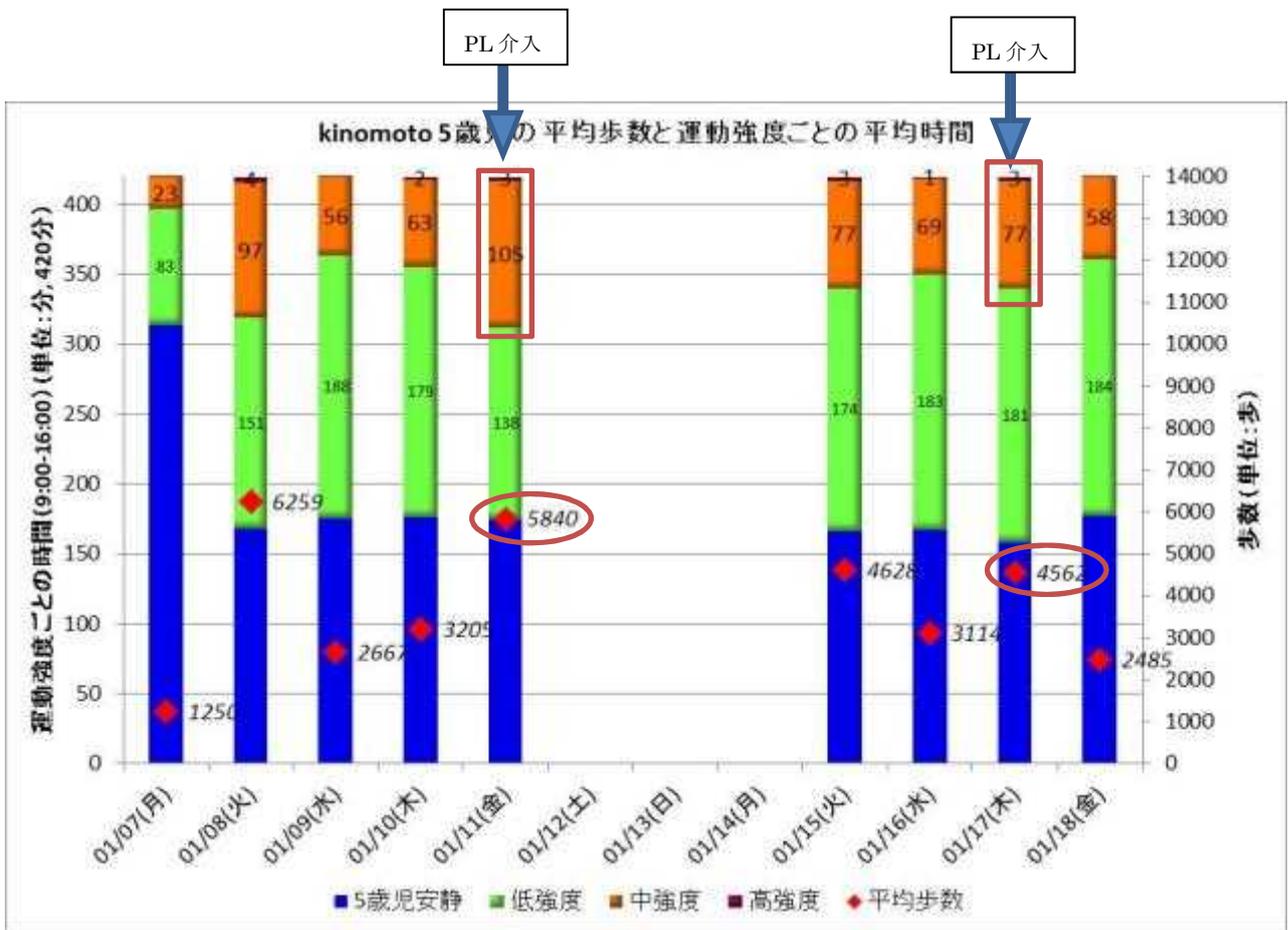
- 木之本認定こども園
- 調査期間： ……平成 30 年 11 月 26 日～平成 31 年 2 月 8 日
- プレイリーダー介入： ……平成 31 年 1 月 11 日、17 日、24 日、2 月 8 日
- 調査対象： ……5 歳児クラス（1 クラス） / 25 人
- 調査結果

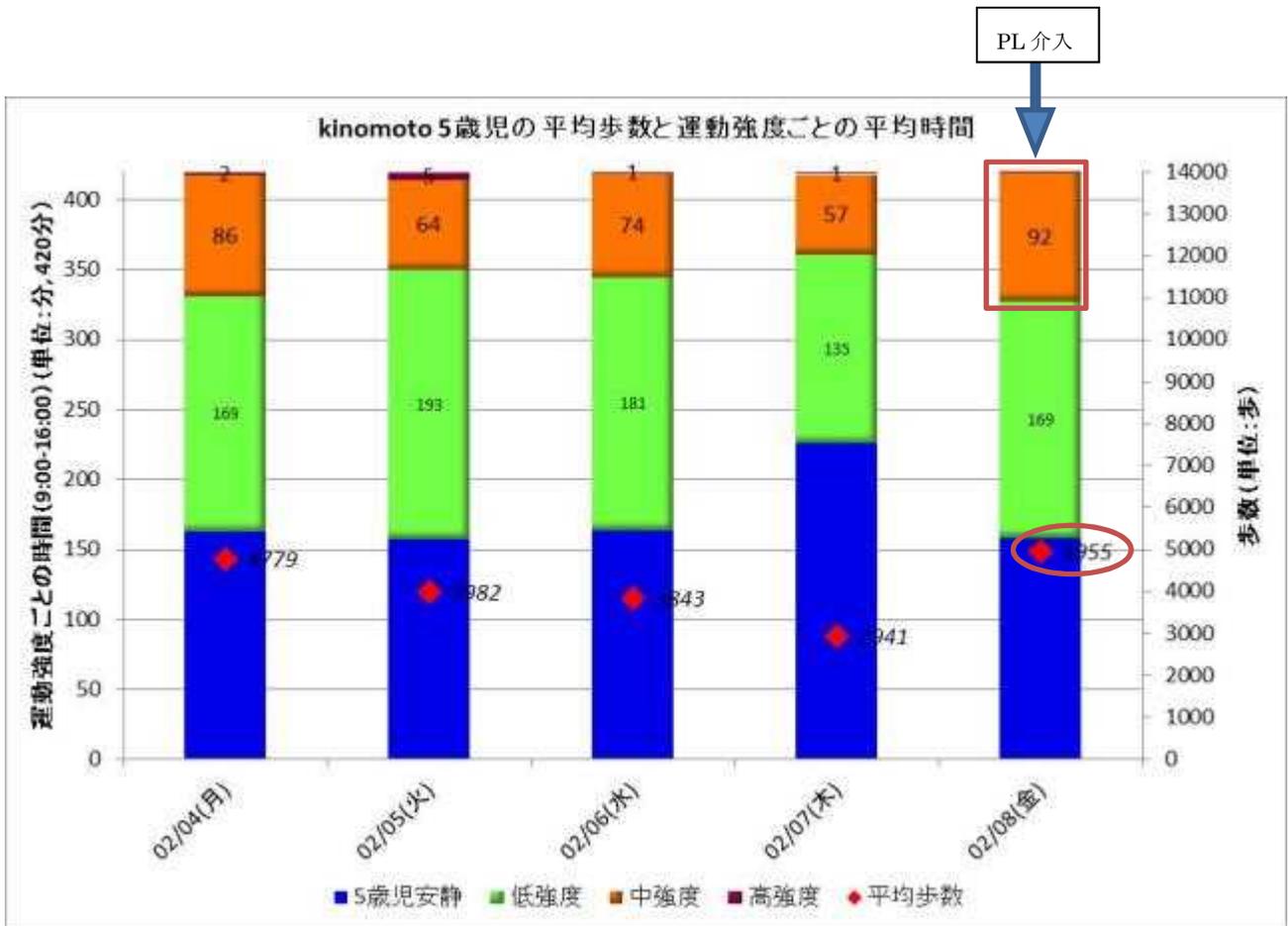
<参考>運動強度の例
 安静 → すわっている・寝転んでいる 低強度 → 歩く
 中強度 → 走る 高強度 → ぜいぜいなるくらい走る



- ・プレイリーダーの介入しなかった月と、介入した月を比較すると中・高強度運動量の平均は若干下がっている。
- ・プレイリーダーの介入した日を一週間の中で見ると、どの週を見ても中・高強度運動量が高い。
- ・中・高強度運動量のばらつきについては、プレイリーダーの介入した月としなかった月を比較すると、目立った差は見られないが、一週間の中でプレイリーダーの介入した日を見ると中・高強度の運動量が高くなっているものの標準偏差の大きな変化は見られない。







- ・中・高強度運動時間をプレイリーダーの介入した月と、していない月で比べると大きな変化は見られない。
- ・また、中・高強度運動時間を一週間の中でプレイリーダーの介入した日と、していない日を比較すると、運動時間は上昇しているが大きな上昇は見られない。
- ・中・高強度の運動時間と歩数を併せてみると、プレイリーダーが介入した日でも中・高強度の運動時間が上昇しているものの、歩数はほかの日に比べてそれほど上昇していない日がみられる。

<事例2>

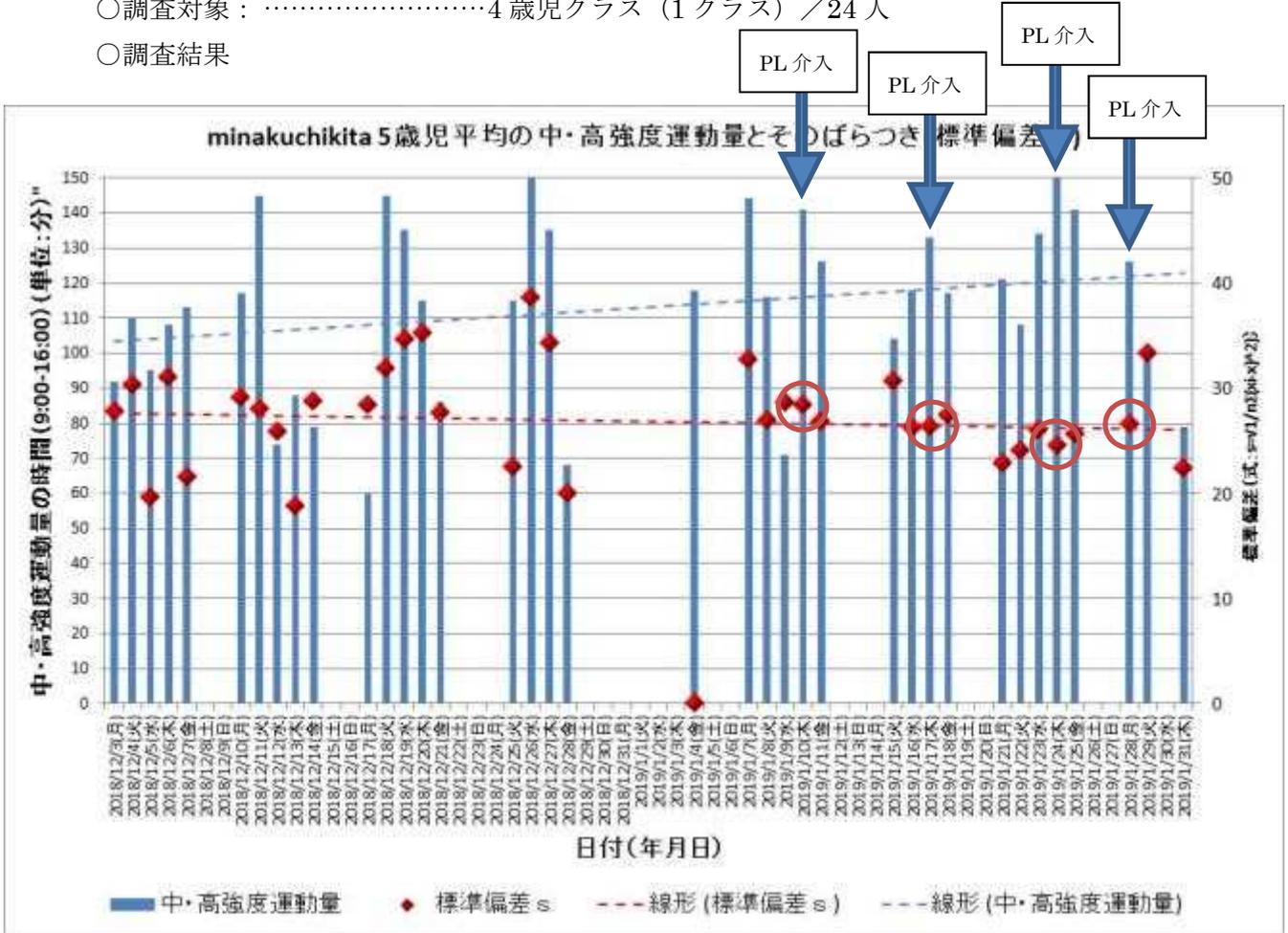
○水口北保育園

○調査期間：……………平成30年12月3日～平成31年1月31日

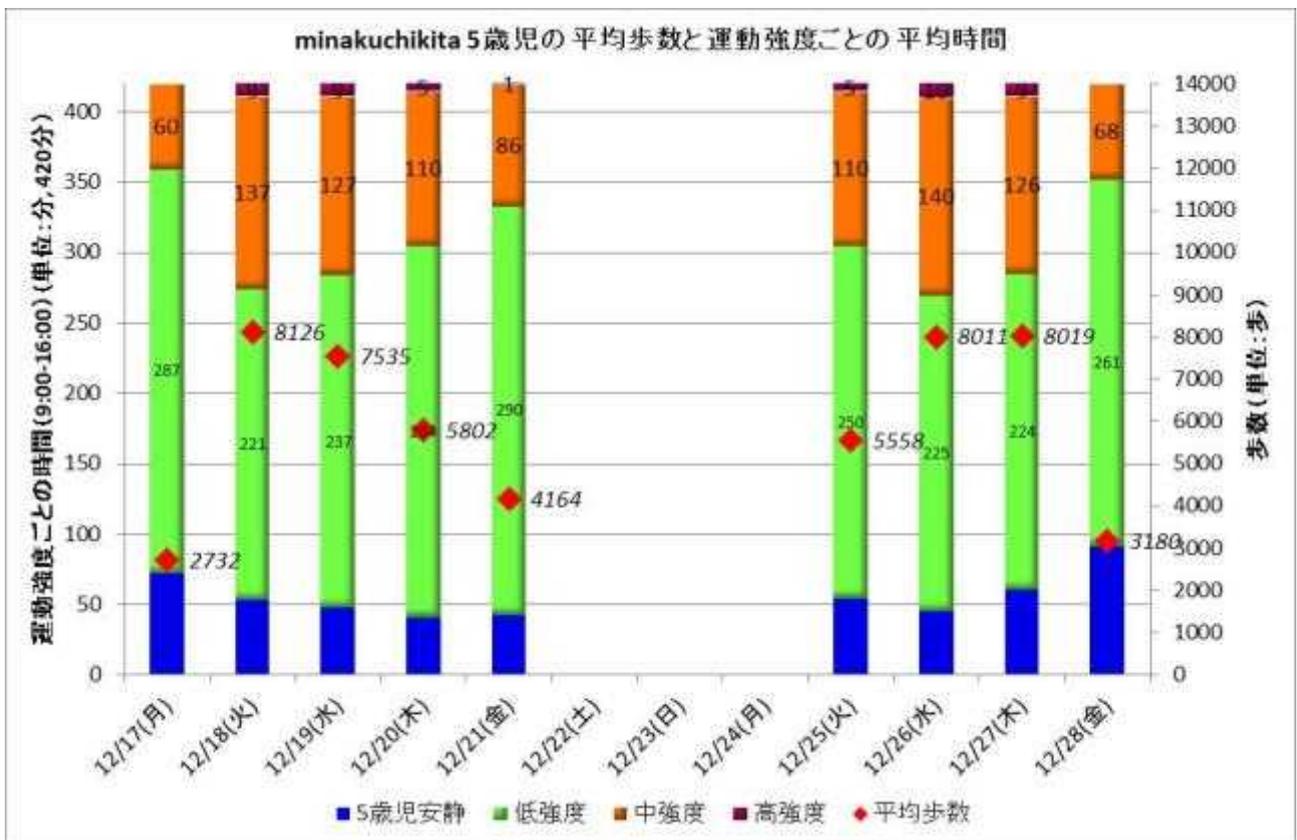
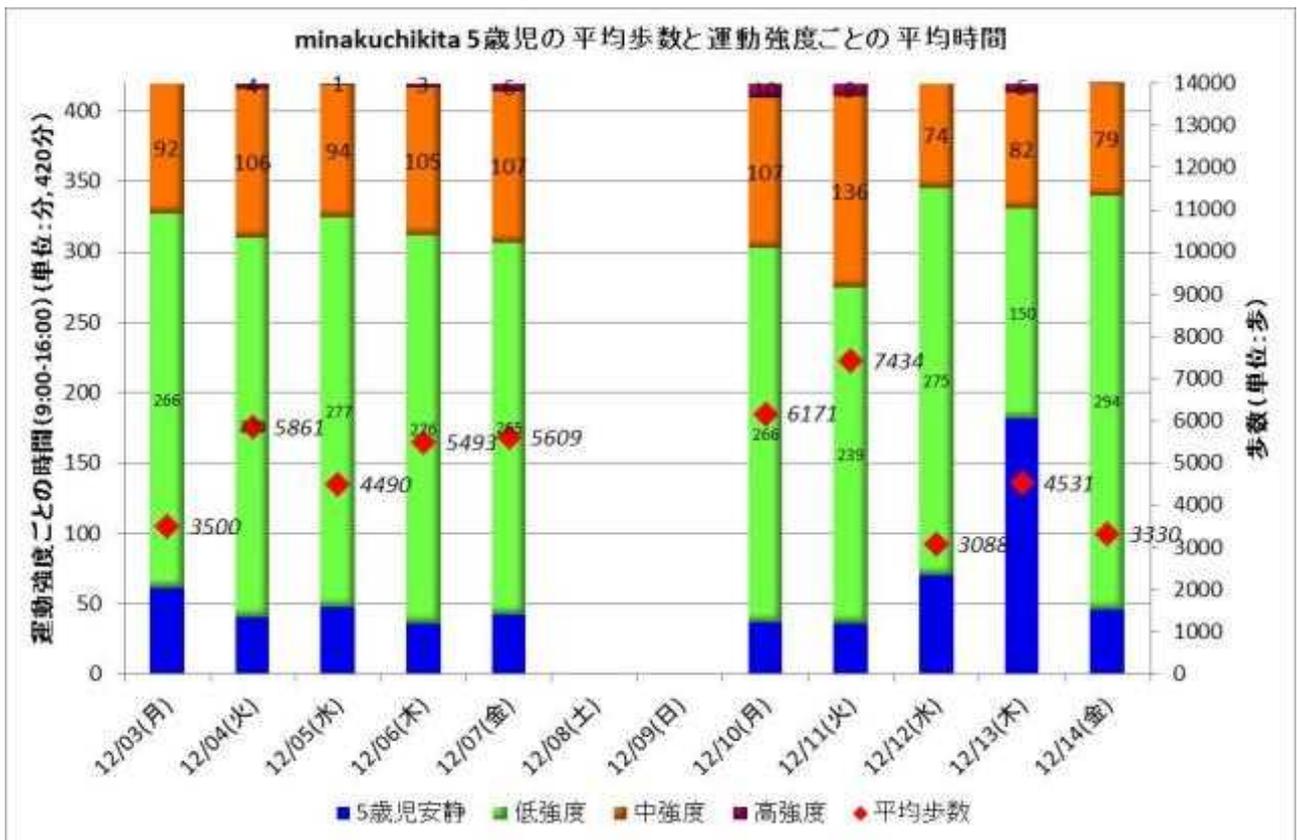
○プレイリーダー介入：……………平成31年1月10日、17日、24日、28日

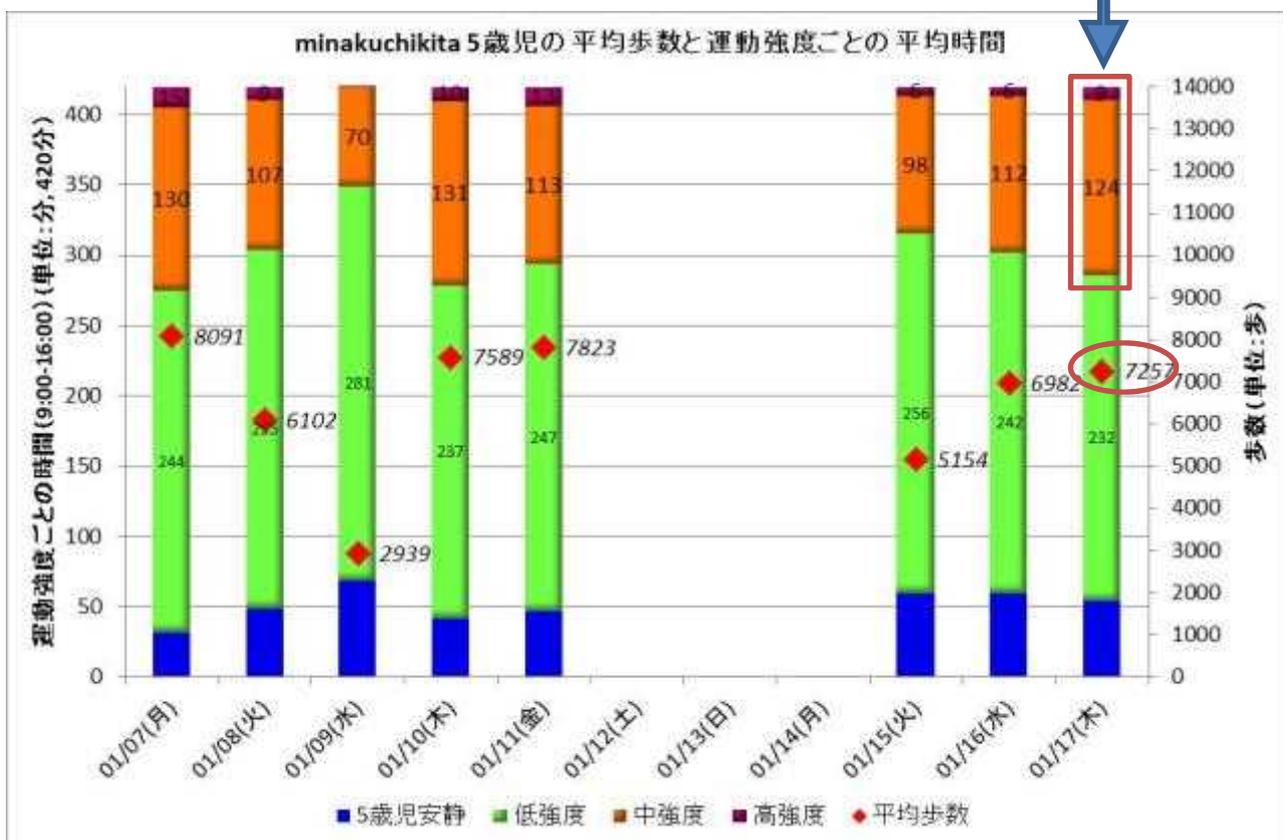
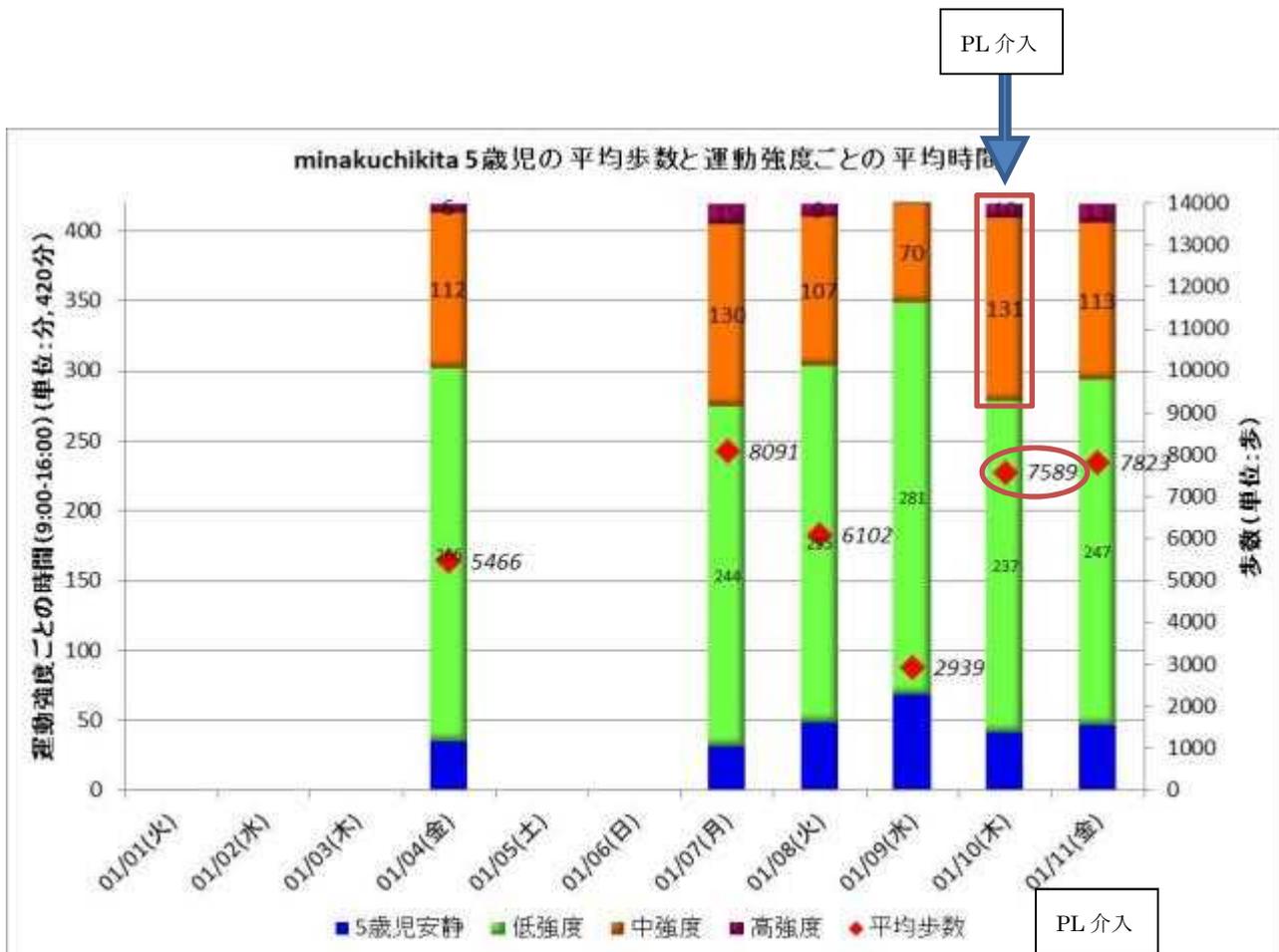
○調査対象：……………4歳児クラス（1クラス）／24人

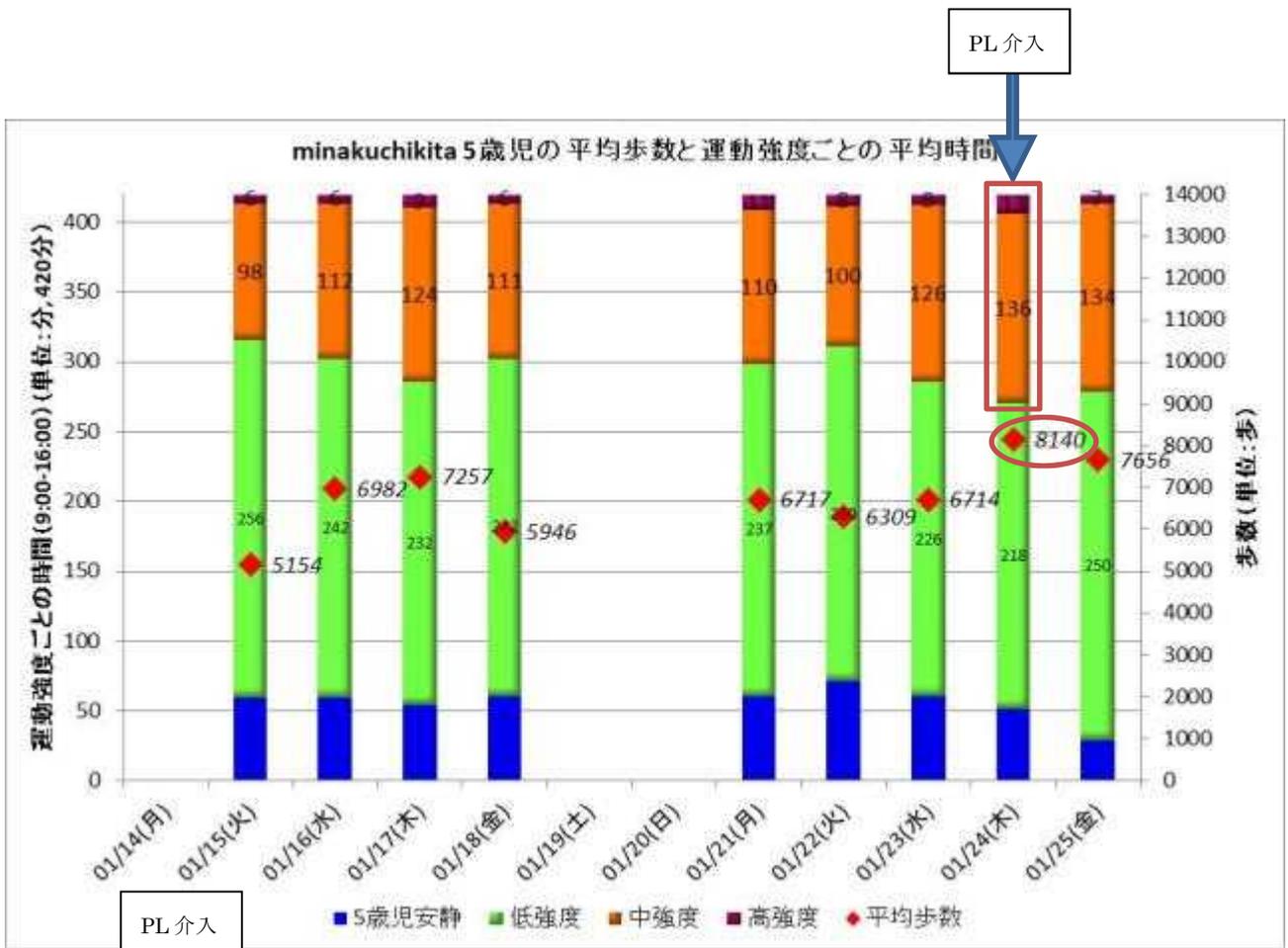
○調査結果



- ・プレイリーダーの介入しなかった月と、介入した月を比較するとプレイリーダーが介入した月の方が中・高強度運動量が高くなっている。
- ・プレイリーダーの介入した日を一週間の中で見ると、他の日に比べると中・高強度運動量が高い。
- ・運動量のばらつきについては、介入した月としなかった月を比較すると標準偏差が下がっており、かつばらつきが収束している傾向である。







- ・中・高強度運動時間をプレイリーダーの介入した月と、していない月を比べると大きな変化は見られない。
- ・中・高強度運動時間を一週間の中でプレイリーダーの介入した日と、していない日を比較すると、運動時間は上昇している。
- ・中・高強度運動時間と歩数を併せてみると、PL が介入した日では歩数は上昇し、中・高強度の運動時間も上昇している。

(3) 研修機会の提供

以下のとおり幼児期の運動遊びに取り組むことの必要性や重要性、モデル事業の展開で得られた運動あそびプログラムの効果や実用性を主に幼稚園教諭等を対象に学んでいただくために研修会を実施した。

また、研修を受講する幼稚園等の先生を対象にアンケートを実施することで、現場での運動遊びに関するニーズの調査を行った。

○実施日：平成 31 年 3 月 27 日

○場所：きのもと認定こども園

○研修会参加者：19 人（先生）

○アンケート回答者数：19 名

<アンケート内容>

1. 日頃の保育の運動遊びでは具体的にどのようなことを意識して工夫していますか。
(例；運動量が増えるように毎日ボールを出すようにしている)
2. 今後、運動遊びをどのように進めていきたいですか。運動遊びの中で目指す姿（子どもの姿、遊びの様子等）があればお書きください。(例；自宅でも積極的に遊ぶ子どもになってほしい)
3. 日頃の運動遊びをする中で、困っていること、わからないこと、教えてほしいことがあればお書き

(4) その他

- ・市町教育委員会幼児教育等担当者会議での事業説明（県教育委員会主催）
- ・「子どもの運動習慣アップ支援事業」事業報告会への参加（スポーツ庁）

Ⅲ. 取組による成果

1. 運動遊びプログラムに関する指導者の育成

- ・地域の運動・スポーツ実践の拠点である総合型クラブの指導者を対象としてプレイリーダーの育成を行うことで、地域で運動遊びプログラムを実践する環境を促進することができた。
- ・研修会を複数回、地域を分けて実施することで、様々な地域の総合型クラブでプレイリーダーを養成し各地域でプレイリーダーを派遣できる環境を促進することができた。
- ・総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の総会と併せて研修会を実施したことによって、各市町の行政担当者やスポーツ推進委員にもプレイリーダー研修を受講していただくことで、市町の中でも運動遊びプログラムの内容の周知を図ることができた。
- ・総合型クラブのスタッフがプレイリーダーとなることによって、総合型クラブが自主事業として子どもを対象とした教室等に取り組みきっかけを作ることができた。
- ・滋賀県スポーツ推進委員協議会と連携し、地区別研修会のなかでプレイリーダー研修を実施することで多くのスポーツ推進委員に研修を受講していただくことができ、総合型クラブのみでなくスポーツ推進委員の取組みのきっかけを作ることができた。

2. モデル事業の展開

(1) 総合型クラブへの効果

- ・本事業を通じて、総合型クラブからプレイリーダーを派遣し運動遊びプログラムを実践するという事業実施形態を他の総合型クラブに示すことによって他の地域で取組むためのきっかけを作ることができた。
- ・派遣された総合型クラブやプレイリーダーの意見では、自身が子どもたちの役に立っているといった認識を持つことができ、生きがいにつながるとの声があった。
- ・総合型クラブと幼稚園等とのつながりを作ることで地域のネットワークを広げ、様々な場面での共助のきっかけを作ることができた。

(2) 子どもたちへの効果

- ・幼稚園等へのプレイリーダーの派遣によって、様々な運動遊びプログラムを提供し、子どもたちに楽しんで、自発的に体を動かしたいと思うような体験をしてもらうことができた。
- ・運動遊びプログラムをプレイリーダーの介入によっての実施することで運動量（歩数）が増加した。
- ・運動遊びプログラムをプレイリーダーの介入によって実施することで中高強度の運動強度の実施時間が増加した。
- ・プレイリーダーの介入していた期間や、介入した日では、子どもたちの運動量（中高強度）のばらつきが低下したり、収束する傾向がみられたことから、プレイリーダーの介入によって子どもたちが運動遊びプログラムに興味を持って楽しみながら取り組むことができたと推測される。
- ・プレイリーダーが介入することで運動量が増加しているが、子どもたちの運動量（中高強度）のばら

つきが低下しているような数値も見られることから、先生以外の人から運動遊びを教えてもらうという事で興味・関心を高め、運動量が増加しても楽しみながらそれに取り組むことができていたと考えられる。

- ・プレイリーダーの介入によって、日頃、先生のみではできないような運動あそびに関しても実施することができ、子どもたちが新しい遊びに興味を持って取り組み、運動量の増加につなげることができた。

(3) 幼稚園等（先生）への効果

- ・幼稚園等での実施を行うことで、幼稚園等の先生にもプログラムのメニューを知っていただき、今後の運動遊びプログラム実施につなげることができた。
- ・総合型クラブの所有する遊具やトレーニングの道具を活用することで普段幼稚園等だけでは実施することができない遊びを実施することができた。
- ・プレイリーダーの介入により運動遊びの際に子どもたちに関わる人数が増えることで、ペアで行う遊びやグループで行う遊びなどを積極的に実施することができ、運動量のばらつきの低下につながったと考えられる。
- ・プレイリーダーが介入することで、先生が普段見ることができない子どもの一面を見ることができ、子どもたちの様々な面に気づくきっかけを作ることができた。また、そういった場面を通じて現場で先生が学ぶ機会になった。

3. 研修機会の提供

- ・モデル事業により得られた運動遊びプログラムの効果やその必要性・重要性を幼稚園等の先生を対象にした研修会を実施するとによって知っていただくことができた。
- ・アンケートの実施によって、運動遊びに対しての現場のニーズを確認することができた。

○アンケート結果の主な内容

1. 日頃の保育の運動遊びでは具体的にどのようなことを意識して工夫していますか。

(例；運動量が増えるように毎日ボールを出すようにしている)

- ・園内の廊下にラインを引いたり、遊具を子どもたちが自由に出し入れできるように準備し、認めや励ましの声掛けをするよう心掛けた。
- ・足腰が鍛えられるような坂道（スロープ）のような遊具を積極的に出すようにしている
- ・保育室内で自然に遊びだせるように、手作りのものを常に出しておくようにしている。(0歳児)
- ・子どもたちが運動遊びを楽しいと感じられるよう子どもたちと一緒に楽しんだり、楽しい雰囲気づくりを行う。
- ・毎日5～10分の運動遊びの時間を必ず設けるようにしている。
- ・普段から（またぐ・くぐる）といった動作が自然にできるよう遊具の配置を工夫している。
- ・保育者が見本となるよう運動遊びを実践してそれを見せるようにしている。
- ・移動する際などに「〇〇歩きでいこう」など楽しみながら体を動かせるよう工夫している。

2. 今後、運動遊びをどのように進めていきたいですか。運動遊びの中で目指す姿（子どもの姿、遊びの様子等）があればお書きください。（例；自宅でも積極的に遊ぶ子どもになってほしい）

- ・身体をうこかすことが好きになり、運動以外の友達とのかかわりや集中して話を聞くことなども連動して成長してほしい。
- ・身体を動かす楽しさを感じて、積極的に遊ぶ子どもになってほしい。
- ・積極的にいろいろな遊びに挑戦できる、自身や意欲のある子になってほしい。
- ・難しいことにもチャレンジしようとする子。
- ・友達と協力しようとする子。
- ・自ら進んで楽しむ、やってみようとする子
- ・運動面での成長だけでなく、集中力や自己コントロールの力を身に付けてほしい。
- ・運動に対する（できない・こわい）などの恐怖心をなくしたい。
- ・目標に向かってコツコツ取り組める子
- ・運動遊びを通じて、集団のルールに触れ、それを守ったり力をあわせて遊ぶ喜びを感じてほしい。

3. 日頃の運動遊びをする中で、困っていること、わからないこと、教えてほしいことがあればお書きください。（例；運動が苦手な子どもでも楽しめるような遊び道具はどういったものがあるか）

- ・乳児の運動遊びを知りたい。
- ・支援児や運動が苦手な子どもが楽しめる遊びや、指導方法を知りたい。
- ・遊びの中で自然と体を動かすことのできる、環境の取り入れ方について。
- ・子どもたちが自ら進んで体を動かしたくなる運動遊びの環境の作り方について。
- ・手作りのできる教材などを知りたい。
- ・子どもが「やりたい」、「楽しそう」と思える指導のしかた。
- ・運動遊びなどに参加しにくい子への誘い方
- ・乳児から幼児までのそれぞれに合った、育てたい運動能力や、またそれを育てるための遊び道具にはどういったものがあるか。
- ・保育時間の短い時短部は特に運動量が少なくなりがちと感ずるため、他の園などの取り組み事例などを知りたい。

IV. 課題

1. 事業実施に関して

- ・単年度事業のため、プレイリーダーの派遣調整や活動量の調査協力の調整などが、園での年間計画などが確定してからになっており調整がしにくい。
- ・幼児期なので月齢による、子どもたちの運動量の差が大きい。
- ・各地域で取り組もうとする際に、すべての総合型クラブがプレイリーダーを派遣できるといった体制ではない。
- ・総合型クラブ自体がどのようにして幼稚園等とつながりを作るのか知らない。

2. 運動あそびプログラムに関して

- ・運動遊びプログラム「PIC」があるが保護者などにどういったものか伝わっていない。
- ・県内市町でも独自に運動遊びプログラムを作成しているところがある。
- ・環境や、目的別に実施できるような運動遊びプログラムが必要。

3. 保護者への啓発について

- ・親に子どもを遊ばせたい、運動させたいと思ってもらう必要がある
- ・子どもの運動能力が低下している、遊び場所や時間が無くなっているということを子育て世代が認識していない。
- ・幼稚園等で保護者をみていると、子どもとどのように接すればよいかわからなくなっている子育て世代が増えているように感じる。また、こどもとのスキンシップや遊ぶことを面倒だと考えている親が増えている。
- ・こどもの成長に関心のある人は何も働きかけなくても積極的に運動遊びなどに取り組むが、関心の薄い人にどのように重要性を知ってもらい、行動してもらおうのかを考える必要がある。

V. 今後の展開方策

1. 基本方針

総合型クラブのスタッフを対象としてプレイリーダーの養成を引き続き行うとともに、子育て世代の保護者についてもプレイリーダー養成研修の対象とすることで、幼稚園等の場のみでなく、家庭での運動遊びの充実を図る。また、幼稚園等へのプレイリーダーの派遣についても、モデル地域のみでなく県内の各地域での実践となるよう取り組みを拡大することによって、子どもが楽しみながら自活で気に運動遊びを実施することができる環境づくりを促進する。

行政（スポーツ部局・教育委員会）や大学、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、滋賀県保育協議会などの各関係機関との連携強化を図り、多角的な方向から地域における「子どもの運動遊びの充実」、「子育て世代の運動参加促進」のための環境整備を図る。

2. 今後の取組

（1）運動遊び指導者（プレイリーダー）の養成

- ・地域バランスを考慮した総合型クラブの指導員を対象としたプレイリーダーの養成
- ・子育て世代等を対象としたプレイリーダー研修の実施

（2）プレイリーダーの幼稚園等への派遣

- ・総合型クラブからプレイリーダーを幼稚園等へ派遣し運動遊びプログラムを実践
- ・プレイリーダーを派遣する総合型クラブの拡大
- ・プレイリーダー研修での子育て世代の活動の場の提供
- ・ICTの活用による活動量の調査

（3）運動遊びプログラムの周知・啓発

- ・幼稚園教諭等を対象とした研修会の開催
- ・保護者等を対象にした研修会・親子運動教室等の実施
- ・運動遊びプログラムリーフレットの作成・配布

おわりに

本県での子どもの運動習慣アップの取り組みに関しては、平成 26 年度から総合型クラブが関わりながら運動遊びプログラムの作成を行い、また、その取組を通じて本年度（平成 30 年度）から総合型クラブの指導員をプレイリーダーとして幼稚園等に派遣を行うといった形で運動遊びプログラムの実践に取り組み始めたところである。

総合型クラブからのプレイリーダーの派遣では、子どもたちはプレイリーダーが教えてくれる初めての運動遊びに興味津々で、目を輝かせながら一生懸命に楽しそうに取り組む姿が印象的であった。

この事業の実施を通じて子どもたちには、体を動かして遊ぶことが「気持ちいい」、「たのしい」ということを体感することで、頭だけでなく体でも運動遊びを好きになってもらうことができた。

また、そういった子供たちが楽しんでいる・興味を持って遊んでいるということ活動を活動量として見える化することで、この取組を県内の各地域に拡大し、継続して取り組むことのきっかけづくりにつなげることができた。

今年度はモデル事業として協力いただいた 2 園とプレイリーダーの派遣を行った 2 つの総合型クラブでの実施となったが、今後はこの取組を県内の各市町、各総合型クラブへの取組として拡大していくとともに、来年度からはプレイリーダー研修の対象を子育て世代やスポーツ推進委員などにも広げていくことで、家庭でも運動遊びに取り組むきっかけを促進し、引き続き「幼児期の運動遊びの充実」や「子育て世代の運動機会の促進」を図ってまいりたい。

参考

- ・ 2017 年作成
- ・ 運動遊びプログラム「PIC」

HP リンク：<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/sports/303715.html>

